

第5回：アブダビ市役所森林部の取り組み

前号で紹介した森林局がアブダビ首長国の東部地域の植林を担当している一方、アブダビ市役所森林部は西部地域の植林・市街地緑化を担当している。西部地域の特徴は主に海岸線に広がる単一面積としては世界最大と言われる塩類集積土（サブハ）地帯、内陸部の砂沙漠と土漠、その一部で見られるオアシス地帯である。その中で植林のためのユニークな調査、試験が行われている。

1) サブハ植林

アブダビから西へ延びる高速道路をリワオアシス方向に入った所にサブハ地帯がある。ここの地下水水位は地表面下数十センチと非常に浅いため、海水の影響をもろに受け、その塩分度は数万 ppm ある。この地下水を利用して無灌水利林が試みられている。サブハに薄く砂丘砂が被っているところで砂丘砂に穴を掘り、下層のサブハの土に到達する上に *Prosopis juliflora* を植林し、成育を調査している。生育は悪いものの、それでもかなりの木が生存しており、順次面積を広げている。ただ、成育調査などは行われていない。

2) 無灌水利林試験

アブダビ南東部に位置するマジナザード周辺は、新しい農業地帯として最近開発が行われている。また、幹線道路周辺では道路の両脇で防風・防砂を目的とした植林が行われている。このうち、比較的地下水の浅い地域で昔の土堀井戸を埋め戻した跡地での無灌水による樹木の生育調査を行っている区域がある。調査対象樹種は *Salvadora persica*、*Prosopis cinerea*、*Acacia ehrenbergiana*、*Acacia jacumantii*、*Acacia raddiana* の5種で、調査が継続されている。このうち、根が深い *Prosopis cinerea*、*Acacia ehrenbergiana*、*Acacia jacumantii* などの生育は良い反面、根が比較的浅く広がる *Salvadora persica*、*Acacia raddiana* は生育が悪かったり、枯死したりしている。サブハ植林同様、成育調査など日常的な調査は行われていない。

3) 砂丘移動防止

東部最大のオアシスである“リワ”は周囲を砂丘に囲まれているため、それに隣接している農地では砂丘移動による農地埋没の危険性を持っている。このため、森林部や地域の住民は昔からデーツ垣や植生被服による砂丘固定の試みを行ってきた。被服植生の樹種は頂上部で *Prosopis juliflora*、斜面で *Leptadenia pyrotechnica* を用い砂丘斜面に配管し、灌水を行っている。



リワオアシス砂丘斜面での緑化
(*Leptadenia pyrotechnica*による斜面緑化)



マジナザードで行われている無灌水試験
(写真左側の樹木)